

『平城宮発掘調査報告XVI―兵部省地区の調査』

(奈良文化財研究所学報第七〇冊)の刊行

平城宮の八省クラスの官衙の全貌を初めて明らかにした発掘調査報告書が刊行された。遺構・遺物・文献史料の総合的な検討によって、奈良時代後半、東区朝堂院南辺の朝集殿院と壬生門の間には、東に式部省、西に兵部省が東西対象に配されていたことが明らかになっており、本書はそのうちの兵部省を対象とするものである。八棟の瓦葺き礎石建物からなり、南に開いたコの字型の空間を構成するきわめて格式の高い空間を構成する一方、建築様式には明確な序列が設けられていた。

省内の遺構からの木簡の出土はないが、西側を南に流れる中央区と東区の間を基幹排水路SD三七一五からは、これまでに一五九一点の木簡が出土しており、本書ではその概括的な考察を試みている。また、平城宮内の平面構造についての総合的な再検討を行ない、新しい平城宮像を提示している。

市販は左記の通り。

奈良文化財研究所編『平城宮兵部省跡』A4判 本文編三〇四頁、図版編二九二頁、吉川弘文館発売 一三三二〇〇円(税込み)